



今や4人に1人が高齢者に

都内市町村でも高齢者人口は増加し続けており、今や20年前の2倍超、4人に1人が高齢者という状況です。

急な生活環境の変化により、社会との繋がりが希薄になってしまいう高齢者の例がある一方で、自らの経験や知識を活かし、積極的に社会参加したいと考える高齢者も多くいます。

このような高齢者を、地域社会の中の「社会的役割を担う側」として、社会参画へと促していくために、自治体はどのようなことができるのでしょうか？

今後ますます高齢化社会へ加速が予想される中、このテーマについて考える場としていくため、**所属や担当業務に関わらず、興味のある方はぜひご参加ください。**

講師 前田 展弘 氏

ニッセイ基礎研究所 生活研究部 ジェロントロジー推進室 主任研究員
(東京大学高齢社会総合研究機構 客員研究員)

1971年生まれ。専門はジェロントロジー（高齢社会総合研究）、超高齢社会・市場、QOL（Quality of Life）、ライフデザイン。

2004年ニッセイ基礎研究所入社。2009年から東京大学高齢社会総合研究機構客員研究員を務める。

超高齢化に対応した社会づくりに向け、様々なジェロントロジー研究を推進。

その中で、高齢者の活躍場所を拡大するための「セカンドライフ支援」に関する研究及び事業（千葉県柏市における「生きがい就労」事業等）、東京大学産学連携組織「ジェロントロジー・ネットワーク」（のべ100社参加）における「高齢者市場創造」の研究、安心して豊かな長寿を実現するための高齢者のQOL（Quality of Life）及びライフデザインに関する研究に注力する。

とき

平成30年9月7日（金）

9:30 ~ 12:15

（開場 9:00）

ところ

東京自治会館
別館1階 階段研修室

高齢者の社会参画に関する現状や、高齢者が積極的に参加できる社会に向けた取り組み・先進事例を紹介します。



参加申込みは、所属団体の研修担当者まで



東京都市町村職員研修所